

# Krull の定理 $\implies$ 選択公理の別証明

alg-d

<http://alg-d.com/math/ac/>

2012 年 10 月 20 日

$X$  を集合,  $k$  を体とする.  $X$  の元を不定元とする多項式環  $k[X]$  の「係数 1 の単項式全体がなす集合」を  $M$  と置く. 任意の  $f \in k[X]$  に対して, ある  $q_0, \dots, q_n \in k^\times$  と相異なる  $m_0, \dots, m_n \in M$  が一意に存在して  $f = q_0 m_0 + \dots + q_n m_n$  と書ける. このとき  $M_f := \{m_0, \dots, m_n\}$  と書く. また, 部分集合  $A \subset k[X]$  が生成する  $k[X]$  のイデアルを  $\bar{A}$  で表すことにする.  $\bar{A} = \{f_0 m_0 + \dots + f_n m_n \mid n \geq 0, f_i \in k[X], m_i \in A\}$  である.

定義. 部分集合  $A \subset k[X]$  が conservative  $\iff \bigcup_{f \in A} M_f \subset A$ .

命題 1. イデアル  $\mathfrak{a} \subset k[X]$  が conservative

$\iff$  ある部分集合  $N \subset M$  が存在して  $\mathfrak{a} = \bar{N}$  と書ける.

証明. ( $\implies$ )  $N := \bigcup_{f \in \mathfrak{a}} M_f$  と置く.  $\mathfrak{a}$  が conservative だから  $N \subset \mathfrak{a}$ , 従って  $\bar{N} \subset \mathfrak{a}$  である.

一方,  $f \in \mathfrak{a}$  とすれば  $M_f \subset N$  だから  $f \in \bar{M}_f \subset \bar{N}$  となる.

( $\impliedby$ )  $f \in \bar{N}$  のとき  $M_f \subset \bar{N}$  であるから明らか. □

$k[X]$  の conservative なイデアル全体のなす集合を  $c\text{-I}(k[X])$  で表すことにする.  $c\text{-I}(k[X])$  は包含関係  $\subset$  により順序集合である. 以下, この pdf では「順序」と書いたら常に  $\subset$  による順序を表す.  $\sigma: \mathcal{P}(M) \rightarrow c\text{-I}(k[X])$  を  $\sigma(N) := \bar{N}$  で定める. これは順序を保つ写像である (即ち  $N_0 \subset N_1 \implies \sigma(N_0) \subset \sigma(N_1)$  となる). 命題 1 によれば  $\sigma$  は全射である.

$k[X]$  の conservative な素イデアル全体を  $c\text{-Spec}(k[X])$  で表すことにする.  $X \subset M$  であるから  $\mathcal{P}(X) \subset \mathcal{P}(M)$  である. よって制限写像  $\sigma|_{\mathcal{P}(X)}$  を考えることが出来る.

命題 2. 1.  $\sigma|_{\mathcal{P}(X)}$  は単射である.

2.  $\text{Im}(\sigma|_{\mathcal{P}(X)}) = \text{c-Spec}(k[X])$  .
3.  $\sigma|_{\mathcal{P}(X)}: \mathcal{P}(X) \rightarrow \text{c-Spec}(k[X])$  は順序同型である .

証明. (1) 明らか .

(2)  $Y \subset X$  に対して  $\sigma(Y) = \bar{Y}$  は素イデアルである . よって  $\text{Im}(\sigma|_{\mathcal{P}(X)}) \subset \text{c-Spec}(k[X])$  である .  $\mathfrak{p} \in \text{c-Spec}(k[X])$  とする .  $\sigma(X \cap \mathfrak{p}) \subset \sigma(\mathfrak{p}) = \mathfrak{p}$  は明らかである . 逆に , 任意の  $f \in \mathfrak{p}$  に対して  $f \in \sigma(X \cap \mathfrak{p})$  である .

∴)  $\mathfrak{p}$  が conservative だから  $M_f \subset \mathfrak{p}$  である .

任意の  $m \in M_f$  を取る . ある  $x_0, \dots, x_n \in X$  が存在して  $m = x_0 \cdots x_n$  と書ける .  $m \in M_f \subset \mathfrak{p}$  で ,  $\mathfrak{p}$  は素イデアルだからある  $0 \leq i \leq n$  に対して  $x_i \in \mathfrak{p}$  である . よって  $x_i \in X \cap \mathfrak{p}$  だから ,  $m = \frac{m}{x_i} x_i \in \sigma(X \cap \mathfrak{p})$  である .  $m \in M_f$  は任意だったから ,  $f \in \sigma(X \cap \mathfrak{p})$  となる .

よって  $\sigma(X \cap \mathfrak{p}) = \mathfrak{p}$  である . 以上より  $\text{Im}(\sigma|_{\mathcal{P}(X)}) = \text{c-Spec}(k[X])$  .

(3) 2 の証明から分かるように ,  $\sigma|_{\mathcal{P}(X)}$  の逆写像は  $\mathfrak{p} \mapsto X \cap \mathfrak{p}$  である . 故に  $Y, Z \in \mathcal{P}(X)$  に対して 「 $Y \subset Z \iff \sigma|_{\mathcal{P}(X)}(Y) \subset \sigma|_{\mathcal{P}(X)}(Z)$ 」 となる .  $\square$

定義.  $X$  を集合とする .

1.  $F \subset \mathcal{P}(X)$  が有限性を持つ  
 $\iff$  「 $Y \in F \iff$  任意の有限部分集合  $Z \subset Y$  に対して  $Z \in F$ 」
2.  $\text{Fin}(X) := \{F \subset \mathcal{P}(X) \mid F \text{ は有限性を持つ}\}$
3.  $F \in \text{Fin}(X)$  に対して  $A(F) := \bigcup_{Y \in F} \bar{Y}$
4. 部分集合  $A \subset k[X]$  に対して  $\text{c-Spec}_{cA}(k[X]) := \{\mathfrak{p} \in \text{c-Spec}(k[X]) \mid \mathfrak{p} \subset A\}$

$F \in \text{Fin}(X)$  とすると ,  $F \subset \mathcal{P}(X)$  であるから  $\sigma|_F = \sigma|_{\mathcal{P}(X)}|_F$  を考えることができる .

補題 3.  $\text{Im}(\sigma|_F) = \text{c-Spec}_{cA(F)}(k[X])$

証明. 簡単のため , この証明の中だけ 「 $(k[X])$ 」 を略す . 命題 2 で示したように ,  $\sigma|_{\mathcal{P}(X)}: \mathcal{P}(X) \rightarrow \text{c-Spec}$  は順序同型であった . よって  $\mathcal{P}(X) \cap \sigma^{-1}(\text{c-Spec}_{cA(F)}) = F$  を示せば良い .  $I_{cA(F)} = I_{cA(F)}(k[X]) := \{a \subset k[X] \mid a \text{ はイデアル , } a \subset A(F)\}$  と置けば

$$\begin{aligned}
\mathcal{P}(X) \cap \sigma^{-1}(\text{c-Spec}_{\subset A(F)}) &= \mathcal{P}(X) \cap \sigma^{-1}(\text{c-Spec} \cap I_{\subset A(F)}) \\
&= \mathcal{P}(X) \cap \sigma^{-1}(\text{c-Spec}) \cap \sigma^{-1}(I_{\subset A(F)}) \\
&= \mathcal{P}(X) \cap \{N \subset M \mid \sigma(N) = \bar{N} \subset A(F)\} \\
&= \{Y \subset X \mid \bar{Y} \subset A(F)\}
\end{aligned}$$

である．故に  $\{Y \subset X \mid \bar{Y} \subset A(F)\} = F$  を示せば良い．

$A(F) = \bigcup_{Y \in F} \bar{Y}$  だから  $\supset$  は明らか．

$Y \subset X$  が  $\bar{Y} \subset A(F)$  を満たすとする．任意の有限部分集合  $Z \subset Y$  に対して  $Z \in F$  である．

$\therefore$   $Z \subset Y$  で  $Z$  が有限だから  $\sum_{z \in Z} z \in \bar{Y} \subset A(F) = \bigcup_{W \in F} \bar{W}$  である．即ちある  $W \in F$  が存在して  $\sum_{z \in Z} z \in \bar{W}$  となる．このとき明らかに  $Z \subset W$  でなければならない． $Z$  は有限集合だったから， $F$  の有限性により  $Z \in F$  である．

$Z$  は任意だったから，再び  $F$  の有限性により  $Y \in F$  である．故に  $\{Y \subset X \mid \bar{Y} \subset A(F)\} \subset F$  が分かった．  $\square$

**補題 4.**  $F \subset \mathcal{P}(X)$  は有限性を持つとする． $\mathfrak{a} \in I_{\subset A(F)}(k[X])$  と  $f \in \mathfrak{a}$  と  $m \in M_f$  に対して  $\overline{\{m\}} + \mathfrak{a} \in I_{\subset A(F)}(k[X])$  である．

**証明.** 任意の  $g \in \mathfrak{a}$  を取る．自然数  $e$  を，どの  $n \in M_g$  も  $m^e$  で割り切れないように取る． $h := m^e f + g \in \mathfrak{a}$  とすれば， $\mathfrak{a} \subset A(F)$  だからある  $Y \in F$  が存在して  $h \in \bar{Y}$  である． $e$  の取り方から  $m^{e+1} \in M_h$  かつ  $M_g \subset M_h$  が分かる．補題 3 により  $\bar{Y}$  は conservative だから  $m^{e+1} \in \bar{Y}$  かつ  $M_g \subset \bar{Y}$  である． $\bar{Y}$  は素イデアルだから  $m \in \bar{Y}$  となる．故に，任意の  $a \in k[X]$  に対して  $am + g \in \bar{Y} \subset A(F)$  である．即ち  $\overline{\{m\}} + \mathfrak{a} \subset A(F)$ ．  $\square$

**補題 5.**  $F \subset \mathcal{P}(X)$  は有限性を持つとする． $\mathfrak{a} \in I_{\subset A(F)}(k[X])$  とする．このとき  $\text{c-I}_{\supset \mathfrak{a}}(k[X]) := \{b \in \text{c-I}(k[X]) \mid b \supset \mathfrak{a}\}$  は最小元  $c$  を持ち， $c \subset A(F)$  を満たす．

**証明.**  $N := \bigcup_{f \in \mathfrak{a}} M_f$  として  $c := \bar{N}$  と置く．明らかに  $c = \min(\text{c-I}_{\supset \mathfrak{a}}(k[X]))$  である．よって  $c \subset A(F)$  を示せば良い．その為に任意の  $g \in c$  を取る． $c$  の定義から，ある  $m_0, \dots, m_n \in N$  と  $\alpha_0, \dots, \alpha_n \in k^\times$  が存在して  $g = \alpha_0 m_0 + \dots + \alpha_n m_n$  と書ける． $N$  の定義から，ある  $f_0, \dots, f_n \in \mathfrak{a}$  が存在して  $m_i \in M_{f_i}$  となる．よって補題 4 を使えば，

$0 \leq i \leq n$  に対して帰納的に  $\overline{\{m_i\}} + (\overline{\{m_{i-1}\}} + \cdots + \overline{\{m_0\}} + \alpha) \subset A(F)$  であることが分かる．従って  $g \in A(F)$  である．  $\square$

**命題 6.**  $F \subset \mathcal{P}(X)$  は有限性を持つとする．このとき  $\text{Spec}_{\mathcal{C}A(F)}(k[X])$  の極大元は conservative イデアルである．

**証明.**  $\alpha \in \text{Spec}_{\mathcal{C}A(F)}(k[X])$  を極大元とする．勿論  $\alpha \in \text{I}_{\mathcal{C}A(F)}(k[X])$  であるから，補題 5 により  $\mathfrak{c} := \min \text{c-I}_{\supset \alpha}(k[X])$  は存在し， $\mathfrak{c} \subset A(F)$  である． $\mathfrak{c}$  は素イデアルである．

$\therefore$   $fg \in \mathfrak{c}$  とする． $\mathfrak{c} \subset A(F) = \bigcup_{Y \in F} \bar{Y}$  だから，ある  $Y \in F$  が存在して  $fg \in \bar{Y}$  である． $\bar{Y}$  は素イデアルだから， $f \in \bar{Y}$  または  $g \in \bar{Y}$  となる．今， $\mathfrak{c}$  は conservative だから  $\bar{Y} \subset \mathfrak{c}$  である．故に  $f \in \mathfrak{c}$  または  $g \in \mathfrak{c}$  となる．即ち， $\mathfrak{c}$  は素イデアルである．

よって  $\alpha \subset \mathfrak{c} \in \text{Spec}_{\mathcal{C}A(F)}(k[X])$  であるが， $\alpha$  の極大性により  $\alpha = \mathfrak{c}$  となる．よって  $\alpha$  は conservative である．  $\square$

順序集合  $A$  の極大元全体がなす集合を  $m(A)$  で表すことにする．

**命題 7.**  $X$  を任意の集合， $k$  を任意の体， $F \in \text{Fin}(X)$  とする．このとき全単射  $m(F) \rightarrow m(\text{c-Spec}_{\mathcal{C}A(F)}(k[X]))$  が存在する．

**証明.** 補題 3 により， $\sigma|_F: F \rightarrow \text{c-Spec}_{\mathcal{C}A(F)}(k[X])$  は全単射である． $\sigma$  は順序同型だったから， $\sigma|_F$  も順序同型であり，よって  $\sigma|_{m(F)}: m(F) \rightarrow m(\text{c-Spec}_{\mathcal{C}A(F)}(k[X]))$  は全単射である．  $\square$

$F \in \text{Fin}(X)$  とする． $A(F) = \bigcup_{Y \in F} \bar{Y}$  は素イデアルの和集合であるから， $S := k[X] \setminus A(F)$  は積閉集合である．故に局所化  $k[X]_{A(F)} = S^{-1}k[X]$  を考えることが出来る．良く知られているように，自然な写像  $k[X] \rightarrow k[X]_{A(F)}$  によって順序同型  $\rho: \text{Spec}(k[X]_{A(F)}) \rightarrow \text{Spec}_{\mathcal{C}A(F)}(k[X])$  が得られる．

**命題 8.**  $\rho$  は全単射  $m(\text{Spec}(k[X]_{A(F)})) \rightarrow m(\text{c-Spec}_{\mathcal{C}A(F)}(k[X]))$  を与える．

**証明.**  $\alpha \in m(\text{Spec}(k[X]_{A(F)}))$  とする． $\rho$  は順序同型だから， $\rho(\alpha)$  は  $\text{Spec}_{\mathcal{C}A(F)}(k[X])$  の極大元である．故に命題 6 により  $\rho(\alpha) \in \text{c-Spec}_{\mathcal{C}A(F)}(k[X])$  となる．このとき明らかに  $\rho(\alpha) \in m(\text{c-Spec}_{\mathcal{C}A(F)}(k[X]))$  である．  $\square$

**定理.**  $X$  を任意の集合， $k$  を任意の体， $F \in \text{Fin}(X)$  とするとき，次の条件は同値．

1.  $F$  は極大元を持つ .
2.  $k[X]_{A(F)}$  は極大イデアルを持つ .

証明. 命題 7 と命題 8 により明らか .

□

定理. Krull の定理  $\implies$  選択公理

証明. Tukey の補題「有限性を持つ集合は極大元をもつ」は選択公理と同値である (詳しくは Zorn の補題・極大原理を参照) . 故に前定理から明らか .

□

## 参考文献

- [1] Marcel Ern e, A primrose path from Krull to Zorn, Comment. Math. Univ. Carolin. 36, 1 (1995) 123–126, <http://dml.cz/dmlcz/118738>